

# 環 境 経 営 レ ポ ー ト

2024 年度

(対象期間:2024 年 6 月～2025 年 5 月)



株式会社 同仁化学研究所

発行日 2025 年 9 月 1 日

# 目次

●事業概要	1～2
●実施体制	3
●環境経営針	4
●2024年度 活動状況	
目標達成状況	5
計画実施状況と取り組みの評価	6～10
●問題の是正及び予防	11
●代表者による全体の評価と見直し	12～13
●第二研究所概要	14～15

## ●事業概要

### (1)事業所及び代表者氏名

株式会社 同仁化学研究所 代表取締役 CEO 上野 右一郎

### (2)所在地

- ・熊本本社 熊本県上益城郡益城町田原 2025-5
- ・ドージン・イースト 東京都港区芝大門 2-1-17 朝川ビル 7F
- ・イノベーティブリサーチセンター 神奈川県川崎市川崎区殿町三丁目 25-22  
ライフイノベーションセンター218
- ・Dojindo Molecular Technologies, Inc.(アメリカ;登録対象外)
- ・Dojindo Europe GmbH(ドイツ;登録対象外)
- ・Dojindo China Co. Ltd(上海;登録対象外)
- ・Dojindo Beijing Co. Ltd(北京;登録対象外)
- ・Dojindo Laboratories Malaysia Representative Office(マレーシア;登録対象外)

### (3)環境管理責任者氏名 尾関 信之

連絡担当者 EA21 事務局 栢多 利博

連絡先 TEL:096-286-1515 FAX:096-286-1525

### (4)事業内容

研究用試薬の開発・製造・販売

### (5)事業規模(2025 年 5 月時点)

事業所	事業内容	従業員数 (人)	床面積(m <sup>2</sup> )
熊本本社	開発・製造・販売	121	5787.74
ドージン・イースト	販売	5	114.00
イノベーティブリサーチセンター	研究開発	3	138.75
計		129	10418.09

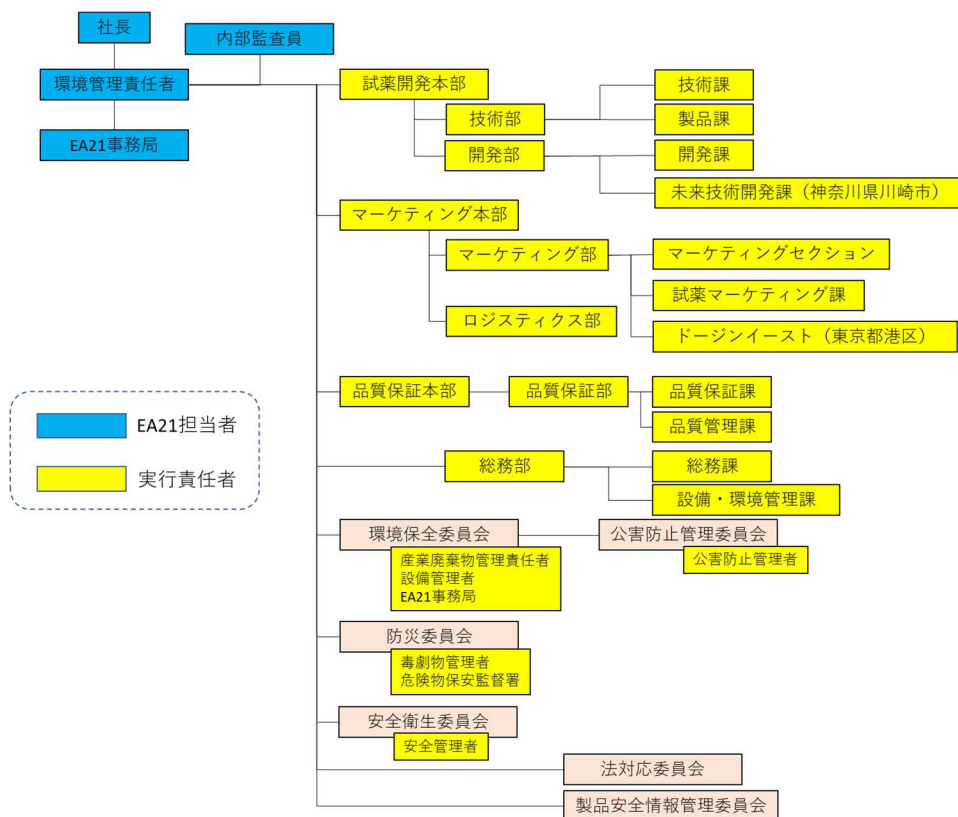
### (6)事業年度

6 月～5 月

(7)対象範囲

国内の全組織、全事業

## ●エコアクション21 実施体制



担当	責任及び権限
社長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの最高責任者</li> <li>・環境経営方針の制定、見直し</li> <li>・環境管理責任者の任命</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> <li>・取り組みを実行するために必要な資源の準備</li> <li>・環境経営システムの全体の評価と見直し</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの構築、維持、運用</li> <li>・実績と運用状況の報告</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐</li> <li>・環境経営レポートの作成</li> <li>・システムの事務管理</li> </ul>
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部監査の実施、報告</li> <li>・内部監査チェックリストの作成</li> </ul>
実行責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動の推進</li> <li>・部門内教育の実施</li> </ul>

## ●環境経営方針

### 株式会社同仁化学研究所 環境経営方針

化学試薬メーカーである私達にとって、地球環境の汚染防止は重要な責務と考えています。そのため、経営理念と中長期経営戦略、それに基づく年度経営方針に沿って活動するとともに、継続的な環境負荷の削減に努め、以下の項目を重点事項として全社員で環境改善活動を推進します。

#### 1) 環境関連法規を遵守します

同仁化学研究所が関係する環境関連の法令・規制・条例等の遵守は、最も優先されるべき基本的事項です。

#### 2) 環境中に汚染物質を放出しません

決して環境を汚染しません。環境汚染物質や廃棄物の適正な処理、さらには、リサイクルの促進による廃棄物削減を通して環境保全に努めます。

#### 3) 省資源・省エネルギーを推進します

水、電気、化石燃料などの限られた資源を決して浪費せず、地球温暖化の主因とされる二酸化炭素排出量の削減に努めていきます。

#### 4) 化学物質の適正な管理に努めます

多種の化学物質を取り扱っているため、その適正な管理を行い環境汚染の防止に努めます。

#### 5) 製品、及びサービスにおける環境配慮に努めます

製品の環境負荷に関する情報を整備・管理し、顧客へ提供します。

#### 6) グリーン調達に努めます

原材料、物品等の購入については、環境負荷の削減に配慮した製品の購入を進めていきます。

#### 7) 社員の意識向上を図ります

環境方針を全社員に周知し、社内での環境啓蒙活動を通して、環境保全活動を推進していきます。

#### 8) 働き方改革を推し進め、業務効率化を行います

効果的なシステムや生産設備を導入して業務効率化を行い、社員の会社内滞在時間を減らしていきます。

制定日 2011年12月16日

改定日 2019年10月22日

株式会社 同仁化学研究所

代表取締役社長 上野 右一郎

## ●2024年度 活動状況

### 【中期環境経営目標(2023～2025 年度)】

項目	基準値	2023 年度	2024 年度	2025 年度
①二酸化炭素排出量(kg-CO2)/売上（百万）	②～④基準値より算出 346.9※	377.5	<b>373.5</b>	369.6
②電気使用量(kWh)/売上（百万）	2019 年度実績値 569.2※	546.4	<b>540.7</b>	535.0
③A 重油使用量(L)/売上（百万）	2018 年度実績値 34.68	33.30	<b>32.95</b>	32.60
④LPG 使用量(kg)/売上（百万）	2019 年度実績値 13.85	13.30	<b>13.16</b>	13.02
⑤産廃排出量(kg)/売上（百万）	2018 年度実績+余剰汚泥 86.46	83.01	<b>82.14</b>	81.28
⑥水使用量(m <sup>3</sup> )/売上（百万）	2018 年度実績値 4.43	4.25	<b>4.20</b>	4.16
⑦廃棄物リサイクル量（率）	2022 年度実績 14.0%	15%	<b>16%</b>	17%
⑧二酸化炭素総排出量（kg-CO2）	②～④基準値より算出 1,161,437kg-CO2※	1,114,980	<b>1,103,365</b>	1,091,751
⑨環境関連法令違反件数	-	0 件	<b>0 件</b>	0 件
⑩収率一定化改善	-	2 件	<b>2 件</b>	2 件

### 【目標達成状況】

項目	目標値	結果	達成率	評価
①二酸化炭素排出量(kg-CO2)/売上（百万）	373.5	291.5	128%	A
②電気使用量(kWh)/売上（百万）	540.7	423.0	128%	A
③A 重油使用量(L)/売上（百万）	32.95	22.7	145%	A
④LPG 使用量(kg)/売上（百万）	13.16	12.1	108%	A
⑤産廃排出量(kg)/売上（百万）	82.14	61.0	135%	A
⑥水使用量(m <sup>3</sup> )/売上（百万）	4.20	4.19	100%	A
⑦廃棄物リサイクル量（率）	16%	15%	93%	B
⑧二酸化炭素総排出量（kg-CO2）	1,103,365	1,045,150	106%	A
⑨環境関連法令違反件数	0 件	0 件	—	A
⑩収率一定化改善	2 件	5 件	—	A

## 環境経営計画:実施状況と取り組み結果の評価】

### ○二酸化炭素排出量の削減

2024 年度 環境経営計画				実施状況	
項目	取り組み内容	時期	担当	実施内容及び結果	評価
電気使用量削減 (二酸化炭素排出量の削減)	適切な空調温度設定、扇風機等の利用	夏場、 冬場	各部門、現地責任者	適切に管理	○
	室外機日よけの設置	7～9 月	設備管理部門	効果が見られないため実施なし 室外機の適宜更新により多少の減少はあ ると考える	○
	業務改善に伴う時間外労働の削減	通年	各部門、現地責任者	年間残業時間前年比 88%(349 時間削減)	◎
	使用状況の把握と改善	通年	設備管理者	デマンドによる通知を受けて可能な範囲で 適宜対応	○
A 重油使用量削減 (二酸化炭素排出量の削減)	燃焼効率監視、蒸気漏れ修理	通年	設備管理部門	燃焼効率は継続監視中。 蒸気漏れごとに修理を実施済み。地下ピッ トの往管の一部を交換実施済み	○
	トラップ故障点検、交換	11 月	設備管理部門	2024 年度特に交換を実施した箇所は無い が、今後必要に応じて交換実施予定	○
	業務改善に伴う時間外労働の削減	通年	生産部門	年間残業時間前年比 88%(349 時間削減)	◎
LPG 使用量削減 (二酸化炭素排出量の削減)	適切な空調温度設定、扇風機等の利用	夏場、 冬場	各部門、現地責任者	適切に管理	○
	業務改善に伴う時間外労働の削減	通年	各部門、現地責任者	年間残業時間前年比 88%(349 時間削減)	◎
	遠隔監視による使用状況の把握と改善	通年	設備管理者	稼働状態を確認しながらムダを削減	○

2024 年度 二酸化炭素総排出量は 1,045,150 kg-CO<sub>2</sub> であった。

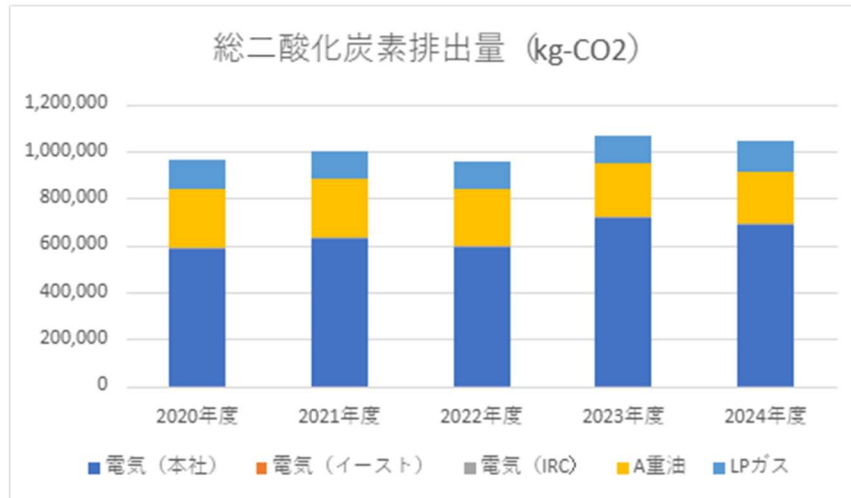
LP ガスは前年比やや増加、電気、A 重油は減少しており、目標値は達成できた。

LP ガスの増加は、熱中症対策や職場環境維持のためエアコン使用量の増加に伴うもの。

- ・目標 二酸化炭素排出量/売上比 -28.0%
- ・2023 年度排出量比 19%減

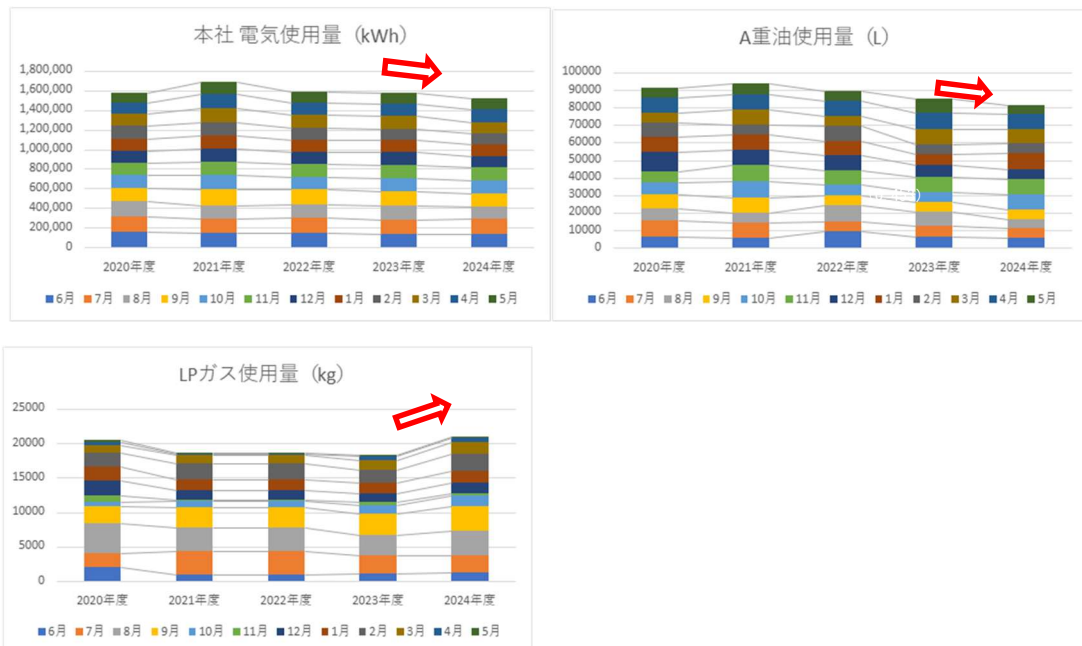


## <二酸化炭素排出量推移>



※二酸化炭素排出係数:2020~2022 年度;0.371。  
2023~2024 年度;0.453。

## <電気・燃料使用量推移>

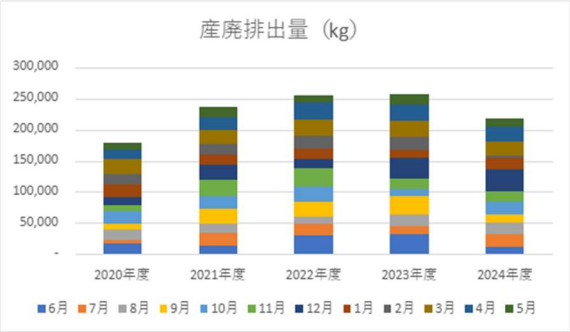


# ○産業廃棄物排出量の削減

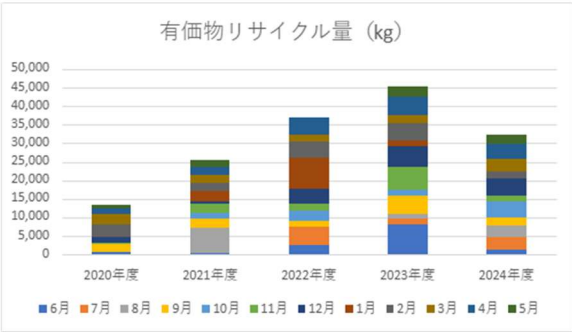
2024 年度 環境経営計画				実施状況	
項目	取り組み内容	時期	担当	実施内容及び結果	評価
産業廃棄物排出量削減	リサイクル率の向上	通年	産廃管理責任者	目標 16%に対して実績 15%。 新たに紙やメタノールのリサイクルを開始したが、アセトンの使用が大幅減のため未達成	△
	適切な手続き、委託先視察	通年	産廃管理責任者	法令に準じて手続きを進めた。定期的な視察も継続中。	○
	搬出回数の削減	通年	産廃管理責任者	廃棄物を圧縮して 1 回当たりの積載量を増加。結果、搬出回数を削減	○
	生産品目の収率一定化検討	通年	生産部門	本年度 5 件実施	○
	不適合品の削減	通年	生産部門	19 件 / 825 件、昨年度より若干増加（昨年度 12 件/813 件）	△

2024 年度も特に廃棄物（特に特管廃油、紙）のリサイクル活動に注力し、リサイクル率の向上を図った。

<排出量推移>



<リサイクルの状況>

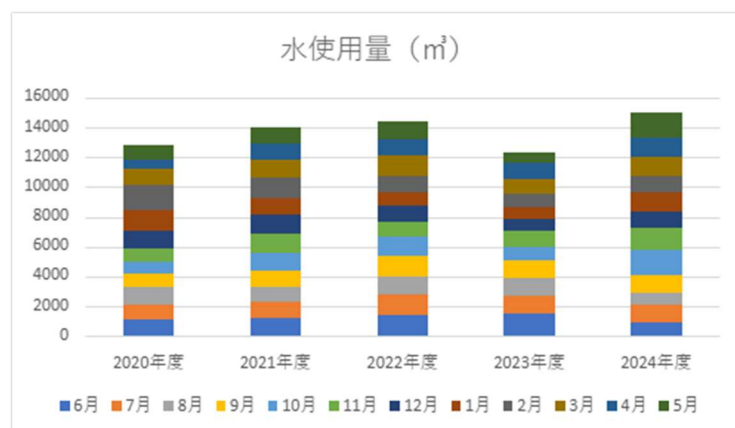


## ○水使用量の削減

2024 年度 環境経営計画				実施状況	
項目	取り組み内容	時期	担当	実施内容及び結果	評価
水使用量削減	希釈水の削減	通年	設備管理部門	毎日水質確認により水量を調整	○
	漏水点検、修理	通年	設備管理部門	適時修繕実施	○
	純水使用量（再生回数）の削減	通年	設備管理部門	イオン交換樹脂を適切なタイミングで交換	○
	漏水防止対策	通年	設備管理部門	漏水箇所の修理	○

水使用量は増加となった。漏水等の異常はなく、水使用量の多い製品の生産タイミングによるものと思われる。

### ＜水使用量の推移＞



## ○化学物質の適切な管理

2024 年度 環境経営計画				実施状況	
項目	取り組み内容	時期	担当	実施内容及び結果	評価
化学物質の適正管理	PRTR 対象物質の管理	6 月	公害防止管理者	報告し、受理済み	○
	化学物質管理システムの運用	通年	製品安全情報管理委員会	適切に対応	○
	有機溶剤作業主任者講習受講	通年	取り扱い部門（未受講者）	6 名受講	○
	不要試薬の廃棄	通年	産廃管理責任者	災害時のリスクを考え、不要な試薬を廃棄。1800 品目、500 kg	○
	特定化学物質作業主任者講習受講	通年	取り扱い部門（未受講者）	9 名受講	○

○業務上の環境配慮

2024 年度 環境経営計画				実施状況	
項目	取り組み内容	時期	担当	実施内容及び結果	評価
業務上の環境配慮	事務用品グリーン調達	通年	購買部門	29.40%	△
	適切な排水の排出管理	通年	公害防止管理委員会	2 回/月の分析実施、委員会内で検証	○
	フロン機器の点検、管理	通年	設備管理者	点検（年次、四半期毎）、廃棄管理	○
	エコキャップ活動	通年	設備管理者	8815 個回収、CO <sub>2</sub> 削減 64.575kg)	○

○環境法令遵守状況

適用される法規制	適用される施設・対象物質等	実施内容等	遵守状況	実施日
水質汚濁防止法（県、町上乗せ基準含む）	排水処理施設、流し台、スクラパー	水質検査、特定施設点検 等	○	水質検査：2024/12/2 特定施設点検： 2024/12/9
化学物質排出把握管理促進法	第一種指定化学物質	排出量報告	○	2025/6/26
騒音規制法（県条例含む）	圧縮機（空調室外機含む）、ファン	設置届	○	第二研究所 2024/07/09 届出
浄化槽法	浄化槽	定期点検、月次点検	○	年次点検：2024/12/13
フロン排出抑制法	フロンガス使用機器	定期点検、自主点検四半期毎	○	定期点検：2025/5/7
廃棄物処理法	一般廃棄物、特別管理産業廃棄物、水銀使用製品廃棄物	自治体協議、実績報告、搬出手続き 等	○	実績報告(熊本)： 2025/6/26
毒物及び劇物取締法	毒物、劇物	紛失確認、	○	2025/6/2
消防法	危険物	消防設備点検、保安講習、軽微変更届	○	消火設備点検： 2025/6/19
労働安全衛生法	有機溶剤、特定化学物質	局所排気点検、作業環境測定	○	局排点検：(毎月 2 回) 作業環境測定： 2025/04/23
大気汚染防止法	ボイラー	設置届、排ガス測定	○	排ガス測定： 2024/12/3
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	顧客から要求があった化学物質等	製造、製造数量等届出	○	適時届出

この他の関連法規制は対象外、もしくは要求事項として努力義務となる。

## ●問題の是正及び予防

### ○環境経営目標、環境経営計画

- 1) 内部監査の結果、社内で実施されている改善活動等がエコアクションの活動とリンクするものが多いことがわかった。来年度は各部で取り組みを環境経営計画に盛り込み、実施状況を内部監査等で確認していく。
- 2) 上記取り組みも含め、全社員が積極的に参加できる環境作りの推進が必要。
- 3) 本社工場の電気をCO2フリー電力に変更するための調査等を行い、2025年6月より切り替えが行われる。今後は第二研究所の切り替え等も視野に入れ活動を行っていく。

## ●代表者による全体の評価と見直し

2025 年 9 月 1 日

代表取締役 CEO 上野 右一郎

当社では、2022 年度にスタートした中長期経営戦略の中で CSR(企業の社会的責任)方針

策定し、2024 年度も引き続き「地球環境の保全」を最重要課題として取り組んできました。

特に、2022 年 11 月から建設を進めてきた第二研究所では、2024 年 8 月より試作製造を開始し、電気・LPG・水道・廃水に関する環境データの収集を本格的にスタートしています。

### ＜全社的な主な取り組み＞

#### 1. エネルギーの適正利用

老朽化した設備の更新や無駄な使用の削減を通じて、エネルギーの効率的な活用を推進しました。

#### 2. 廃棄物のリサイクル

再利用可能な資源の分別とリサイクルを徹底し、廃棄物の削減に努めました。

#### 3. 環境関連法規の順守

社内委員会を中心に、法令遵守の体制を強化し、継続的な改善を図っています。

### ＜本社工場での再生可能エネルギー導入＞

本社工場では、従来の電力会社から「くまもと地域みらいエネルギー株式会社」へ切り替え、実質再生可能エネルギー100%の電力を導入しました。この取り組みは、2025 年 6 月 1 日より本格的に開始しました。

## ＜社員の参画と人材育成＞

各部門では「生産性向上」を目的とした業務改善の中に、自然と環境保全につながる活動が含まれています。社員一人ひとりがその価値に気づき、積極的に参加できるよう、エコアクション 21 事務局の体制を強化し、メンバーを増員しました。これは、未来を担う人材の育成にもつながる重要なステップと考えます。

## ＜課題への対応と改善＞

「問題の是正および予防」の観点から、以下の見直しを行いました：

- **環境経営システム**

現状に即した内容へ方針を改定する必要がある場合は、柔軟に対応します。そのため、事務局の人員を増やし、体制を強化いたします。

- **環境経営目標・計画**

2023 年度から継続している「2023～2025 年度目標」に向けた活動を、着実に進めます。

- **第二研究所の活用**

2024～2025 年度の生産実績をもとに、次期中長期目標および計画の立案を行います。

■環境活動レポートに関するお問い合わせ先

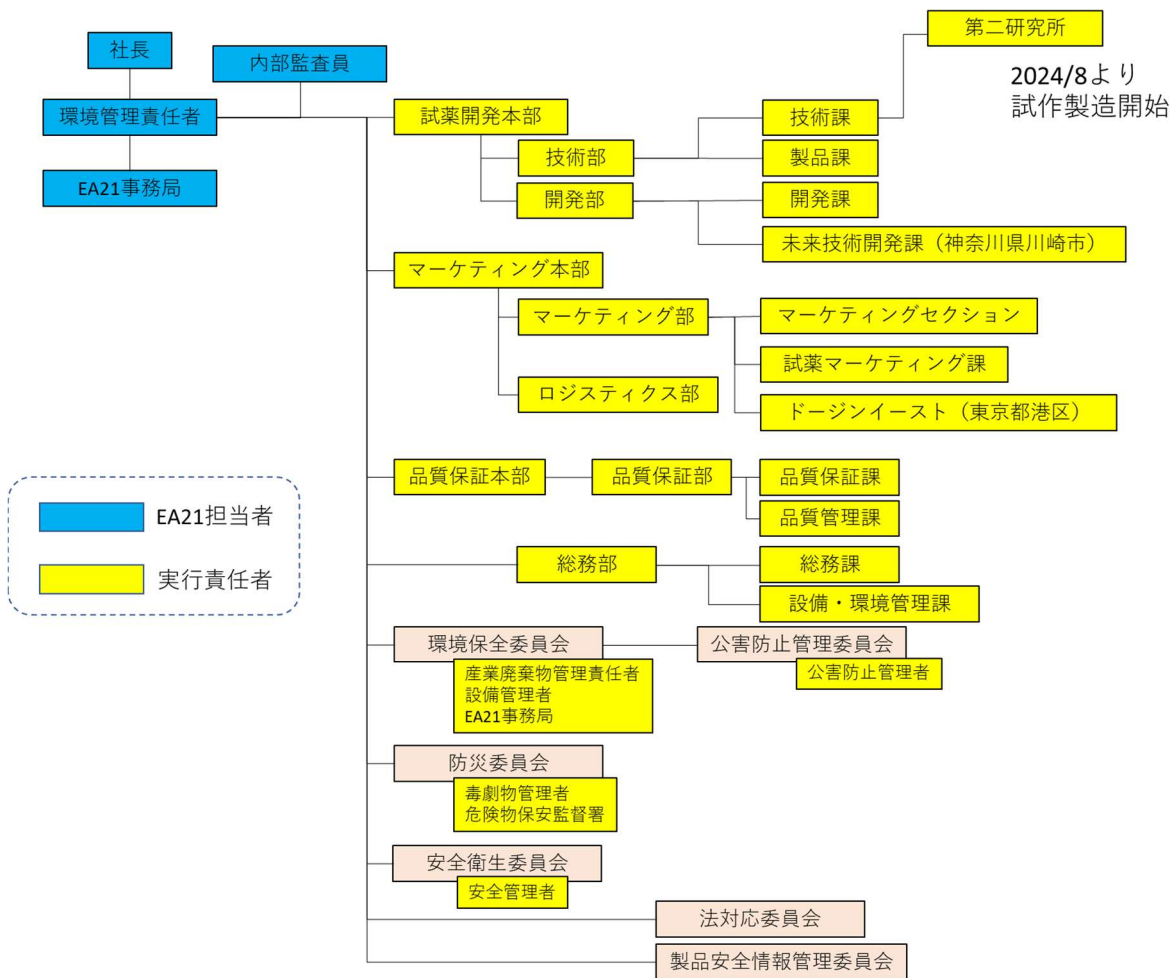
株式会社同仁化学研究所 EA21 事務局

〒861-2202 熊本県上益城郡益城町田原 2025-5

TEL:096-286-1515 FAX:096-286-1525

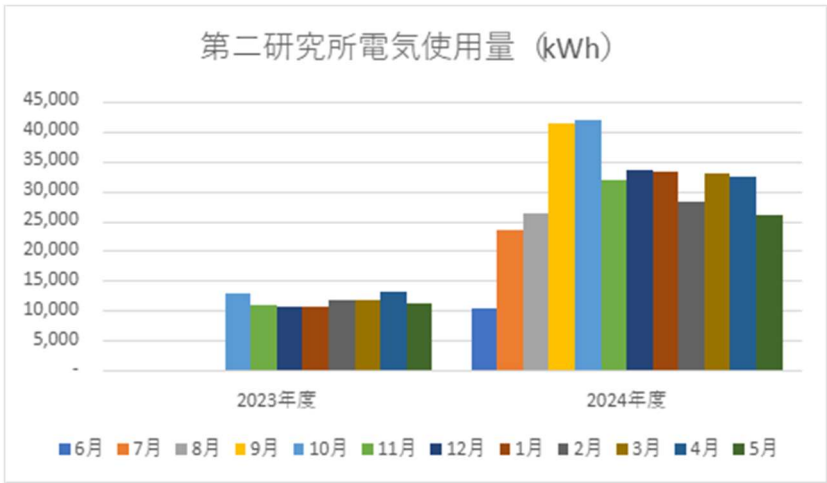
次回環境活動レポート発行予定:2025 年 9 月

2024 年度 第二研究所を含めた実施体系図(2024 年 8 月～)

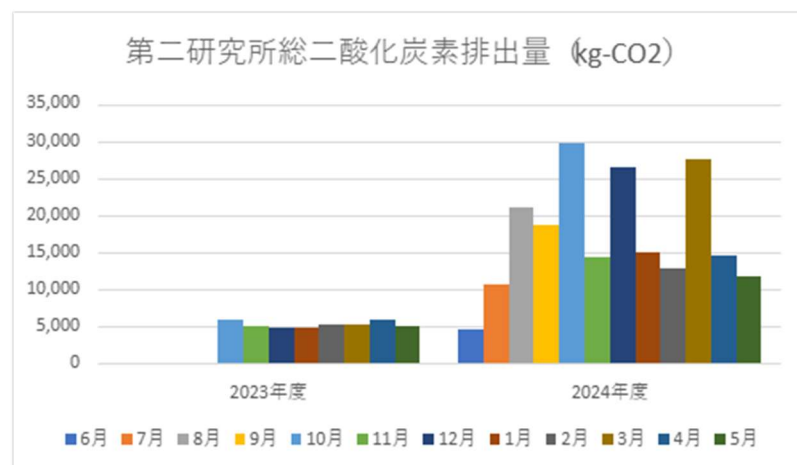
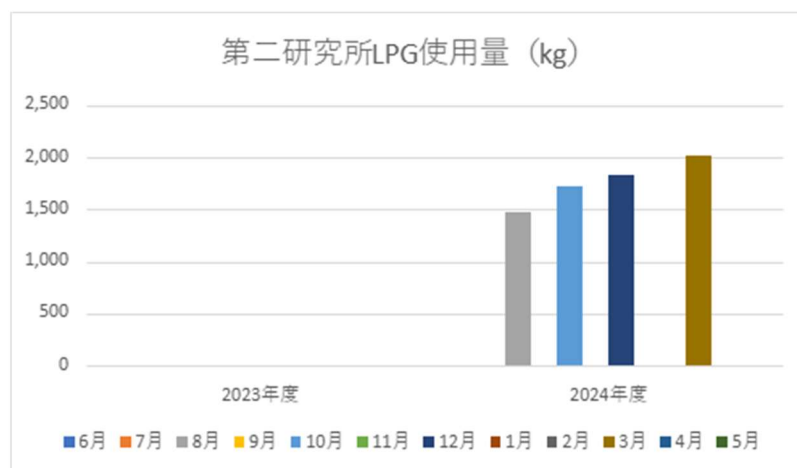
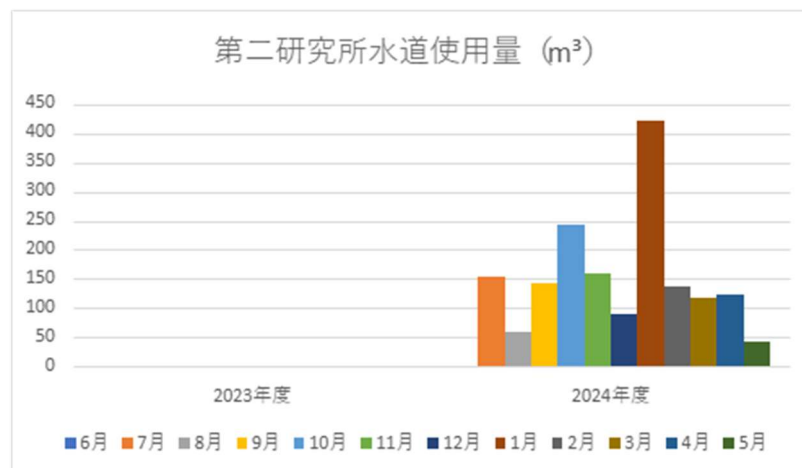


(第二研究所 エネルギー使用実績)

2023 年 10 月末の建屋引き渡し後、生産設備の設置工事を実施した。2024 年 8 月より試作品の生産を開始し、社内品質の確認の上、顧客へ変更承認を得ている状況である。







※二酸化炭素排出係数:2023～2024 年度;0.453。